

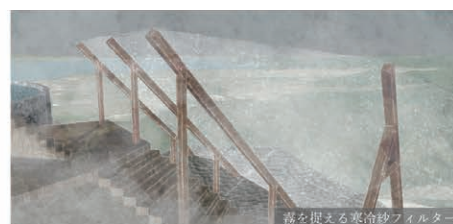
名城大學建築同窓會會報

●発行/2022年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

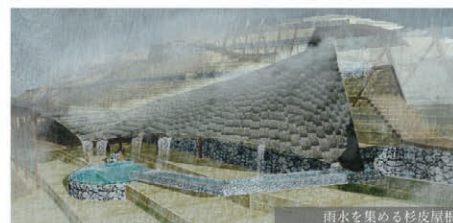
No. 150



芽吹くいぶき
～伊吹山石灰石鉱山における自然回復建築～



霧を捉える寒冷紗フィルター



雨水を集める杉皮屋根



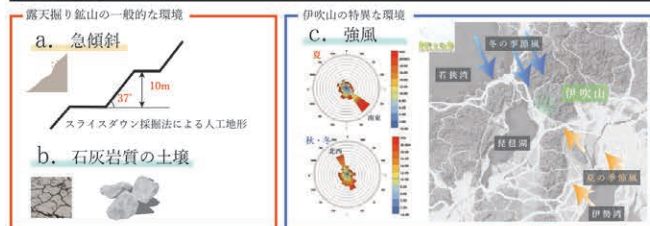
回復しつつある森と強風

Design Subject
設計対象

嚴しい自然環境

Design
設計

環境を整える自然回復建築



最優秀賞(雑誌『近代建築』別冊掲載作品)

芽吹くいぶき ー伊吹山石灰石鉱山における自然回復建築ー 杉本 竜也

INDEX

会長・学科長あいさつ……………1・2	建築学科教職員……………6	令和3年度事業計画……………8
情報交流会……………3	就職情報……………6	令和3年度予算……………8
支部だより……………3・4	令和2年度事業報告……………7	会則……………9
キャンパスニュース……………5	令和2年度決算報告……………7	表紙・裏表紙解説……………10
同窓会ホームページ……………5	令和2年度会計報告……………7	令和3年度役員……………10



建築同窓会会長

下地 康夫

(昭和47年卒)

建築同窓会会員の皆様方におかれましては、日ごろから同窓会活動にご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

私が建築同窓会会長職を引き受けて4年が過ぎました。その4年間の内3年間はコロナ禍で活動も十分に行われていません。そして現在、コロナは収まるどころかますます広がり勢いがすさまじく、感染がより身近になってきました。自分自身が又、家族が感染した時どこまで対策をしたらいいのか、いざという時を想定して準備をし、具体的な連携が図られるのか、不安と大きなストレスを感じながら生活しています。人々も家で過ごす時間も多くなり、過ごし方には工夫と忍耐が求められ、不自由さにストレスが溜り限界に近づいているように思われます。そのような中で同窓会の皆さまはいかがお過ごしでしょうか、

今後はコロナが収まったとしても社会の仕組み、特に会議のあり方は変わっていくのではと考えます。建築同窓会においてもこれらの事を考えてリモート会議等も取り入れ会議のあり方等も変えていかなければなりません。また、若返りも図り、より積極的に活動する必要があるのではと考えます。特に若いメンバーに大いに期待をしたいと思います。R2年度から情報交流会において、現役学生を対象に新しい試みとして就職支援企画を検討していました。この企画を通して、卒業生が同窓会活動に参加するきっかけになることを大いに期待し、特にこれからの情報交流会に若い人たちの参加を大いに期待をしていました。

R3年度も、また、情報交流会や学内行事への参加と協力支援・協賛等で同窓会と学内の連携強化を行う事業等々、多くの事業の大半が中止となり残念な結果に相成りました。令和4年度も支援企画の開催の目途が立ちません、非常に残念な思いであります。コロナ禍により国全体も地域も、また、同窓会も連携が不十分となり何かが壊れそうで不安感を感じざるをえない今日この頃であります。

そのような中、大学はノーベル賞の受賞、また新たな受賞の可能性や更なる女子駅伝の活躍、また、野球部等のスポーツを始め多方面での活躍に、大学の発展に大変誇らしく頼もしく感じています。

今後も同窓会の絆がより一層深まるよう皆で乗り越えていきたいと考えていますので、同窓会の皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



建築学科長(令和4年4月より)

石井 仁

名城大学建築同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当学科の諸活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私この4月より学科長を拝命いたしました。建築学科に着任して7年目の若輩者?ゆえ不安もございますが、任期の2年間責務を全うする所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の先行きが見通せない中、同窓会との対面による交流活動が行えない状況が続いており遺憾にたえません。今年度は交流活動に明るい兆しが見えることを祈るばかりです。

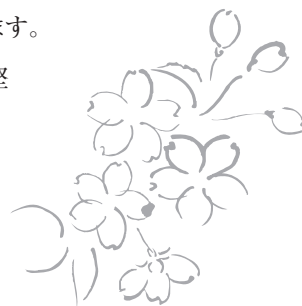
昨年度、名城大学は前期から原則対面で授業を実施し、感染状況が悪化した場合は遠隔授業に切り替える方針で始めました。東海地方において何回か感染が拡大する時期もありましたが、学生および教職員の感染予防の対策や意識により2月の後期試験まで遠隔に切り替えることなく対面での授業を遂行することができました。また、すべての期間ではありませんが、学外授業や学生出張も可能となり、卒業研究・卒業制作もコロナ禍前に近いレベルで行うことができる状況でした。何とか大学の本質的価値が維持できた1年であったと思います。3月には卒業生・修了生のみの参加形式ではありますが、卒業式も挙行される予定です(原稿執筆時点)。残念ながら卒業祝賀会は今回も中止せざるを得ませんでした。

新型コロナウイルスとの共生を余儀なくされた1年でしたが輝かしい出来事も数多くありました。元建築学科教授の松井徹哉先生が日本建築学会大賞を受賞されたことをはじめ、学生ならびに教員が学会や設計競技等で優れた賞を受賞しています。また研究室と外部との共同プロジェクトが大学ホームページに掲載されました。紙面の都合上、全ての受賞とプロジェクトを記載できませんので詳しくは学科ホームページをご覧くださいければ幸いです。

佐藤布武先生が着任されて以来、佐藤先生監修のもと名城大学建築学科・大学院建築学専攻優秀論文・作品集(イヤーブック)が毎年発行されています。イヤーブックは建築学科・専攻の研究・学習成果の情報発信を目的として、修士論文、卒業論文、卒業制作、学部製図課題から優れた論文、作品・課題を選出して掲載しています。オープンキャンパスの参加者、卒業生、在学生などに配布しています。大学ホームページからイヤーブック掲載の優秀作品集を閲覧することができます。大学ホームページで「WEB OPEN CAMPUS」と検索して、建築学科の紹介ページまで進むとご覧いただけます。

受験人口の減少期を迎えましたが、幸いにも建築学科は例年並みの受験者数でした。就職も堅調を維持しています。しかし今後の入試や就職状況については楽観を許さないと認識しています。

末尾となりましたが、同窓会を始めとする本学建築学科にご関係の皆様方の今後のますますのご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。



令和3年度情報交流会

建築同窓会情報交流会も2019年(令和元年)の開催を最後に新型コロナウイルスの感染に伴い、ここ2年間取止めております。2020年につきましては日程や会場の手配もされ、新しくOB・OGの方の参加を頂き、学生の皆さんの就職支援の相談会を情報交流会の一環として取り入れる企画を検討していましたが、感染拡大に伴いやむなく中止となりました。

2022年におきましても、建築同窓会の役員会も定期的開催出来ない状況が続いており、日程や会場の手配を含め開催は厳しいと考えられますので御理解をお願いします。尚、開催が可能であればホームページ等で御案内をさせていただきますので、その際は協力をお願いします。

建築同窓会事業・経済委員会

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 組織委員 清水 敏生 (昭和46年卒)(代)

コロナ禍雑感

三年目に入ったコロナ禍のなかで会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

社会も生活様式も変容を遂げている中で、テレワーク・在宅勤務・デリバリーサービスなど社会が好ましい方向へ進化していくことは好ましいことだが、何か物足りなさを感じる。

それは人と対面で会話できないという寂しさからではないだろうか。

人は本来、対面しながら会話することで楽しみ、意見交換、ときには争いなど情報をやり取りしてきたが、モニターを通じて会話しても実感がなく無機質なものだ。

当支部の総会も2年にわたり総会開催中止となり書面総会となったが、今年も一応会場は予約したもののどうなることやら……。

早くコロナ禍が終息した後、会員と一同に会してマスクなしで飲み交わしたいものだ。

それにしても日本人のマスク着用の徹底ぶりには関心する。

先月、英国から2年ぶりに里帰りしてきた娘夫婦によると羽田空港に着いて最初に驚いたのは、日本人のすべてがマスクを着用していたことだそうです。

孫も「爺ちゃん、日本の人はマスクが好きだね。」と驚いていた。

言われたこと(マスク、手洗い、うがい)を律儀にまもる日本人気質が、諸外国に比べて感染者数の圧倒的少なさの源になっていると説明したが、孫は理解できないようだった。

また、コロナ禍のなかで老人の認知症が増えていることも気になる。

他人事ではなく、いつ自分が発症するかも知れない年齢になりつつあるからだ。

人生100年時代とはいえ、折返し地点をとっくに過ぎて70歳台に入った。

残りの人生を心身ともに健やかに生きるためには、人生の整理が必要であることは判っているが、終活を始めるべきか、人生整理か、人生最後の何かにリベンジすべきか、まだ、残り時間があるからと結論を先送りしている。

その間に身体的衰えが進み物忘れが激しくなっていくが、忘れることも大切だと思う。

「忘却とは忘れ去ることなり」というフレーズが有名になった戦後のラジオドラマがあったが、私は、忘却とは神が人間に与え給うた脳の断捨離作用であり、清掃作用であるから躊躇なく受け入れるべきであると考えている。

さあ、今日もこの神の恩恵を受けながら物忘れを恐れることなく、お金も、仕事の悩みも、すべて忘れて人生を楽しむことにしよう。

あと、残り少ない時間を大切にしながら……。

P.S:コロナ禍終息後、皆様にお会いできることを楽しみにしていますが、その節にはあなたのお名前を思い出せないこともありますのでよろしく!!

■『東三河支部』だより

東三河支部 支部長 山本 利州（昭和37年卒）

『今思うこと』

今、日本・世界では新型コロナウイルス感染症による非常事態が2年も続いており、すべてのことが変わろうとしています。

私たちは、人と細菌やウイルスが共存していることや細菌やウイルスのお陰で人間が進化していることをやっと確認し始めました。全ての分野で価値観や技術を変えざるを得ない時にあるのです。因みに、細菌は独自で増殖機能を持っていますが、ウイルスは自分自身では増殖できず他の生物に寄生して増殖する微生物だそうです。

私は名城大学を卒業して60年、細菌のように独自で増殖すべく、「建築とロマン」を求めて設計事務所をスタートさせて今年で56年目になりますが、始めの頃と今では仕事のやり方が全く変化（CAD、VR、テレワークやTV会議などIT、DX時代）していて、我々古い人間には厳しい時代となっています。しかし、変化を恐れず変化を取り入れながら今でも現役設計士として頑張っていることに大変感謝しております。ただ、最近では先輩方や友人らとの楽しかった昔のことばかり思い出することが多く、特に名城大学の東枇杷島校舎時代は大変懐かしい限りです。

最後に、東三河地区も早く支部長を「若手にバトンタッチ」して、名城大学建築学部のパワーで支部を活性化させて欲しいと思っている昨今であり、これが今年の私のテーマかな！。この1年間も特に報告することがなくて大変失礼いたします。

■『関西支部』だより

関西支部 事務局 小巻 弘幸（昭和58年卒）

こんにちは、関西支部の58年卒小巻弘幸です。コロナ禍の中、集まって集会を開いたり、懇親会などやりにくい日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

少し古い話になりますが、関西に建築同窓会の組織が無かった1990年代の終わり、当時の岩崎同窓会会長から、支部を作らないかと言うお話をいただきまして校友会でつながりがあった田中さん草澤さんらのお声がけで、ひとまず兵庫県で支部を作ろうと、1999年5月に兵庫県支部を立ち上げました。

吉田さんに支部長を引き受けていただき、それ以来の事務局なのですが、奈良、和歌山、大阪、滋賀と支部を増やし、それをまとめる形で、2005年5月に関西支部を立ち上げる事ができました。ひとえに支部会員の皆様のおかげです。

大人数ではありませんが、地域が広い事もあって、設立当初からメーリングリストを活用して公式、非公式なやり取りをしてまいりました。

毎年各県で支部長と総会を持ち回り、各県の工夫を凝らした総会と見学会をセットにして、参加して楽しいイベントとして回を重ねてきました。

2019年に京都の西陣で、まち歩きと老舗料亭での総会を大阪地区の幹事で行ってから、新型コロナウイルス感染症の流行で、日程まで決まっていた奈良総会も延期したまま、会員の皆様にもお会いできずにいます。

同じ大学を卒業したというつながりは消えることなく、何年もご無沙汰していても、会えば「やあ久しぶり！」の一言だけですぐいつもの会話がするのは無形の財産なんだと思います。

役目上、関西支部総会等の連絡もあり、他県の諸先輩とも一般会員以上のつながりができたことは、貴重な体験として、記憶に残る事がたくさんあります。

ただやはり、何年もやらずにいと、勢いを付けないと総会を企画するのも大変です。

毎年、春になると総会だなぁとざわざわしたのですが3年も空いてしまうと総会をやらない春が日常になってしまい、物足りなさを感じています。

いつまでも若造だと思っていたのですが、いつの間にやら還暦も過ぎ、私事になりますが、次回をもって事務局を退任させて頂くことになっておりますので、その次からは、別の立場で総会に参加させていただくのが楽しみだったりします。

はやく、新型コロナウイルス感染症の流行が治まり、特效薬が開発されて、支部総会を開けるようにならないかと思う日々です。

添付画像は2019年支部総会の画像です。



キャンパスニュース

令和3年度 名城大学建築学科 学科賞受賞者

卒業研究部門

最優秀論文賞(工学分野)	榊原 卓樹
〃	渡邊 悠司
最優秀論文賞(計画分野)	山田 莉杏
優秀論文賞(工学分野)	伊勢野 幸菜・鐘江 美帆
〃	國井 かれん
〃	石川 里奈・米田 千聖
〃	伊藤 結飛
〃	武田 京子
〃	吉田 吏玖
優秀論文賞(計画分野)	江川 立樹
〃	蜂須賀 蓉子
〃	竹内 大登

卒業制作部門

最優秀賞	杉本 竜也
優秀賞	服部 琴音
〃	伊藤 真央
アーキテクト賞	佐野 朱友那

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

令和3年度同窓会賞受賞者

加藤 駿一(生田研)	村上 凛貴(佐藤研)	加藤 雄也(松田研)
南 宥佑(石井研)	松浦 侑亮(高井研)	南 ひかる(三浦研)
伊藤 結飛(市之瀬研)	甲斐 楓麻+小林 直人(高橋研)	出口 鈴+平塚 紫帆(武藤研)
久保 辰朗(大塚研)	政木 恵華(谷田研)	吉田 有輝(吉永研)
岡本 将成+伊藤 洋輝(岡田研)	吉牟田 千晴(寺西研)	水野 ^{たかひと} 貴仁(米澤研)

名城大学建築同窓会ホームページのご案内

名城大学建築同窓会ではホームページを随時更新しております。

新鮮な建築同窓会活動の状況やキャンパス内の様子などの情報を配信しております。

情報発信のツールとして同窓会、建築学科、学生の皆さまにさまざまな情報の橋渡しができるよう

充実させて行きたいと思いますので多くの皆様にアクセスしていただきます様お願い申し上げます。

建築同窓会 名城大

検索



建築同窓会 会報・名簿・IT委員会

建築学科教職員

教 授	建 築 計 画	生 田 京 子	准 教 授	建 築 構 造	大 塚 貴 弘
〃	環 境 設 備	石 井 仁	〃	建 築 構 造	高 橋 広 人
〃	建 築 構 造	市之瀬敏勝	〃	建 築 計 画	谷 田 真 〇
〃	環 境 設 備	岡 田 恭 明 〇	〃	建 築 材 料	平 岩 陸
〃	建 築 計 画	鈴 木 博 志	〃	建 築 構 造	松 田 和 浩
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 〇
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	助 教	建 築 計 画	佐 藤 布 武
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	歴 史 意 匠	米 澤 貴 紀
〃	環 境 設 備	吉 永 美 香			
〃	環 境 計 画	吉 久 光 一			

2022年4月1日現在 〇印は名城大学卒業生
(あいうえお順)

就職情報

就職・進路の動向

岡田 恭明 (就職・進路支援委員)

1. はじめに

建築関連業界の求人状況は、人手不足と建設需要を背景に堅調に推移しており、学生らの希望の企業に比較的就職しやすい状況にあります。就職採用時期については、経団連が就職協定を廃止したこともあります。年明けの早期から開始する企業が目立っています。ここ数年、求人活動の一環として、多くの民間企業が数日間のインターンシップを3年の夏季休暇を中心に開催しています。また、地方自治体等の採用試験に関連した職場体験なども実施されるようになってきました。ここ数年の動向として、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大防止対策に併せて、インターネット環境を利用したWeb会社説明会やオンライン面接が広く行われており、2020年3月頃のような就職活動が滞ることは無くなっているのが現状です。ただし、最終面接については、オンラインではなく対面で実施されており、企業側も学生の人柄を適切に評価しようという意向がみられ、学生はもちろん教員も一安心しています。

2. 就職先の状況

今年度の卒業生の就職先は、ゼネコンやサブコンなどの総合建設業が4割、ハウスメーカーや工務店などの住宅産業が2割、設計事務所や官公庁を含むその他の業種が2割弱の比率になっています。業種別の就職状況は、例年と同様、総合建設業と住宅産業が全体の過半数を占めていますが、これまで住宅産業や不動産開発業に流れていたデザイン設計志望の学生が、少数ではありますが、設計事務所に入所する傾向がみられるようになってきました。建築学生の就職先の裾野は広く、多様な業種に就職先がありますが、マイナビやリクナビなどの就活サイトに依存していることから、学生にとってイメージしやすい企業に集中する傾向もみられます。したがって、今後も引き続き、広範な業種に就職先があることを学生らに周知していきたいと考えています。

3. 大学院への進学

建築学科の大学院進学率は、業態の特徴から社会情勢によっても変化しますが、他大学への進学も含めて10～15%で推移しています。また、構造・材料・環境設備系のエンジニアリング分野の進学が特に少なくなっており、大学院進学の意味と魅力を学生にどの様に伝えるかに苦慮しているところです。一方、建築士の受験資格が改正され、大学院在学中に試験を受けることが可能となり、院生の就職活動時や就職後に、1級建築士試験に合格していることが大きなアドバンテージになることが期待されています。それと同時に、本来の勉学・研究に打ち込むための時間の確保と環境整備が、担当指導教員の課題の一つになるものと思われます。

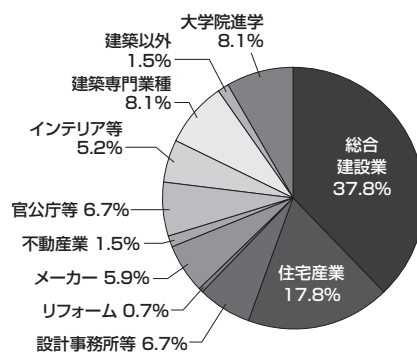


図1 2021年度の卒業生(学部)の就職先(135名)

令和2年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

- ①総務委員会
- 1) 会議の開催
- 役員会 評議員会(11/12)同時開催
- 2) 建築同窓会活動への協力支援を実施いたしました。
- 3) 学位記授与式に祝金支出、参加支援をしました。
- ②財政委員会
- 1) 1年生オリエンテーションは中止。会費振込票を配布していただきました。
- 2) 財政委員会は開催致しておりません。
- 3) 会費振込依頼
- 平成30年度卒業生、1～4年生の保護者、会員・新会員に発送していません。
- 4) 2年生・3年生・4年生ガイダンスは中止。会費振込票を配布していただきました。
- 5) 年会費、永年会費納入のお礼状を発送しました。(33通)
- ③事業・経済交流委員会
- 1) 次回情報交流会ほか学生参画型行事の企画を立案、検討。
- 2) 情報交流会開催は延期。
- ④会報・名簿・IT委員会
- 1) 建築同窓会会報(149号～A4版)を2,000部発行しました。
- 2) 卒業生・在校生用に建築学科に会報を1,000部寄贈。
- 3) 新型コロナのため、配布中止。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの更新。
- ⑤組織委員会
- 1) メール交換、WEB会議、書面採決などにより、役員会・総会等を開催した支部に対して活動支援金を支出しました。
- 中国支部
- 関西支部
- 岐阜支部

令和2年度決算報告

(単位:円)

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	建築同窓会年会費	690,000	126,000	年会費12名(うち新親0名)、R2永年会費3名
	学生会員会費	900,000	200,000	学生会員(R1卒含む)20名
	事業収入	400,000	0	
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	262,000	理工同窓会援助金
	寄付金	10,000	2,000	協賛金等
	利子及び雑収入	1,000	22	利子(元帳+各委員会)等
	収入合計(A)	2,281,000	590,022	

(単位:円)

	項目	予算額	決算額	備考
支出の部	総務委員会	540,000	104,284	
	学科支援金	300,000	100,000	建築学科への支援金
	会議費	120,000	0	評議員会、役員会、正副会長会
	交際費	40,000	0	他会お祝い金、慶弔費
	運営費	80,000	4,284	通信費等
	財政委員会	210,000	8,887	
	郵送費	100,000	0	会費振込依頼、お礼状発送費
	印刷費	50,000	0	同窓会封筒等印刷
	運営費	60,000	8,887	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ、備品費等
	事業・経済交流委員会	430,000	0	
	情報交流会費	400,000	0	情報交流会会場費等
	事業費	20,000	0	見学会、講演会等
	運営費	10,000	0	通信費、備品費等
	会報・名簿・IT委員会	840,000	660,829	
	会報印刷費	350,000	339,900	会報等案内印刷
	会報郵送費	290,000	134,200	会報郵送等
	名簿調査作成費	50,000	50,000	名簿調査
	HP管理費	140,000	135,289	ドメイン更新、HPメンテナンス
	運営費	10,000	1,440	通信費、備品費等
	組織委員会	210,000	60,540	
	支部支援費	110,000	60,000	中国、岐阜、関西支部
	旅費交通費	60,000	0	各支部総会旅費
	運営費	40,000	540	
	予備費	51,000	300	振込手数料
	支出合計(B)	2,281,000	834,840	
	当期収支差額(A)-(B)	0	△244,818	

(単位:円)

財産の部	令和2年度期首財産(令和2年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金(H25～R1)	1,600,000	
	活動準備金	2,088,131	
			3,688,131
	令和2年度期末財産(令和3年3月31日)次年度繰越金		
	周年事業積立金(H25～R1)	1,600,000	
	周年事業積立金(R2)	0	
	次期活動準備金	1,843,313	
			3,443,313

令和2年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会令和2年度(2020年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

令和3年7月12日

監事 岡野 廣海

監事 山中 弘

令和3年度事業計画

- (令和3年4月1日～令和4年3月31日)
- ①総務委員会
- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施。
- 2) 会議の開催
- 通常総会開催 理工同窓会開催日程に準じて開催、もしくは書面にて議案採決を図る
- 役員会開催 当面、WEB会議を中心に役員間連絡、審議を進める
会議開催が可能となり次第、順次開催予定
- 評議委員会開催 状況に応じて開催、もしくはWEB・書面にて議案承認を願う
- 正副会長会議 当面、WEB・書面にて連絡・調整を図ることとする。
- 3) 学内各行事への参加と協力支援・協賛等で、同窓会と学内の連携、協調を図る。
先生方との連絡体制を充実、役員との意見交換並びに調整・対応を強化させる。
- 4) 卒業生並びに評議員との連携強化に向けた同窓会情報の伝達及び連絡網充実を図る。
- 5) 慶弔に関する事務。
- ②財政委員会
- 1) 前年に引き続きガイダンスが中止のため、学生会員へ会費振込票を配布していた。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿も充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
60歳以上の会員の方に永年会費のご案内並びに納入をお願いする。
- 4) 学生会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(令和元年、2年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。
- ③事業・経済交流委員会
- 1) 第26回情報交流会を企画。
日時、場所、開催方法等については別途協議。
- ④会報・名簿・IT委員会
- 1) 建築同窓会会報(149号～A4版)を2,000部発行。
- 2) 卒業生・在校生用に建築学科に会報を1,000部寄贈。
- 3) 郵送希望会員、会費納入者に前号と共に郵送。
26回生(S54卒)、31回生(S59卒)含む。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの更新。
- ⑤組織委員会
- 1) WEB会議、書面採決なども含め、役員会・総会等を開催した支部に対して活動支援金を支出。
- 2) 状況に応じて開催されることとなった各支部の総会への参加。
- 3) メール交換等も含め、必要に応じて各支部及び委員会内での意見交換・連絡調整。
- 4) 同窓会の各行事が開催されることとなった場合には、これに参加。

令和3年度予算

(単位:円)			
収入の部	項目	予算額	備考
	建築同窓会年会費	690,000	年会費 3,000円×180名 永年会費 30,000円×5名
	学生会員会費	900,000	学生会員会費 10,000円×90名
	事業収入	400,000	情報交流会参加費等
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	理工同窓会援助金
	寄付金	10,000	協賛金等
	利子及び雑収入	1,000	利子(元帳+各委員会)等
収入合計(A)		2,281,000	
(単位:円)			
支出の部	項目	予算額	備考
	総務委員会	540,000	
	学科支援金	300,000	建築学科への支援金
	会議費	120,000	評議員会、役員会、正副会長会
	交際費	40,000	他会お祝い金、慶弔費
	運営費	80,000	通信費等
	財政委員会	210,000	
	郵送費	100,000	会費振込依頼、お礼状発送費
	印刷費	50,000	同窓会封筒等印刷
	運営費	60,000	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ
	事業・経済交流委員会	430,000	
	情報交流会費	400,000	情報交流会会場費等
	事業費	20,000	見学会、講演会等
	運営費	10,000	備品費等
	会報・名簿・IT委員会	840,000	
	印刷費	350,000	会報等案内印刷
	郵送費	290,000	会報郵送等
	名簿調査作成費	50,000	名簿調査
	HP管理費	140,000	ドメイン更新、HPメンテナンス
	運営費	10,000	通信費、備品費等
	組織委員会	210,000	
	支部支援費	110,000	中国、関西、岐阜、名古屋支部
	旅費交通費	60,000	各支部総会旅費
	運営費	40,000	
	予備費	51,000	振込手数料等
支出合計(B)		2,281,000	
当期収支差額(A)-(B)		0	
(単位:円)			
財産の部	令和3年度期首財産(令和3年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金(H25～R2)	1,600,000	
	周年事業積立金(R3)	100,000	
	活動準備金	1,743,313	3,443,313

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の整備
2. 会報の発行及びホームページに会報の情報掲載
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会の召集)
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)
(4) 監 事 2名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。

- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会における議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。

第6章 資産及び会計

- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。
(事業年度)
第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
(特別会計)
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第7章 雑 則

- 第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

附 則

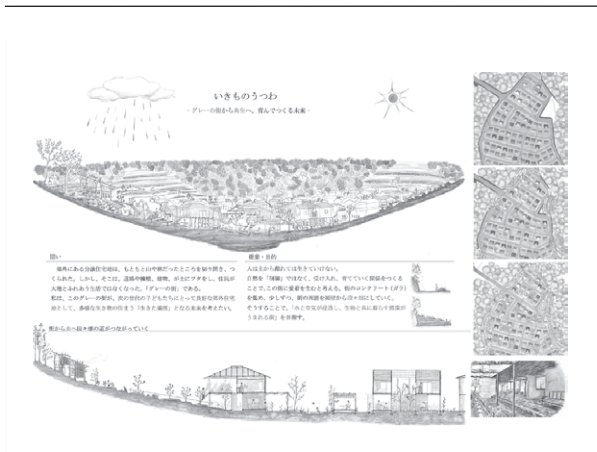
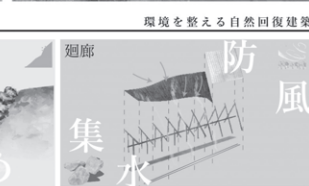
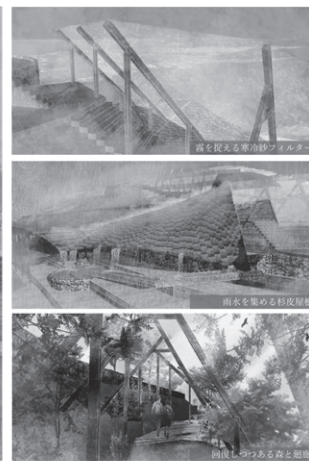
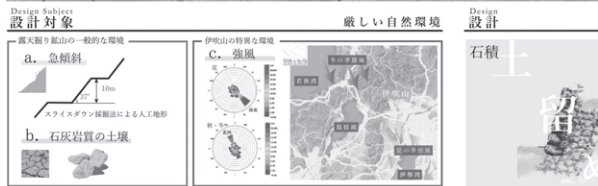
- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部改正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部改正及び訂正施行する。
(18) 平成28年 6月12日会則一部改正及び訂正施行する。

表紙・裏表紙解説

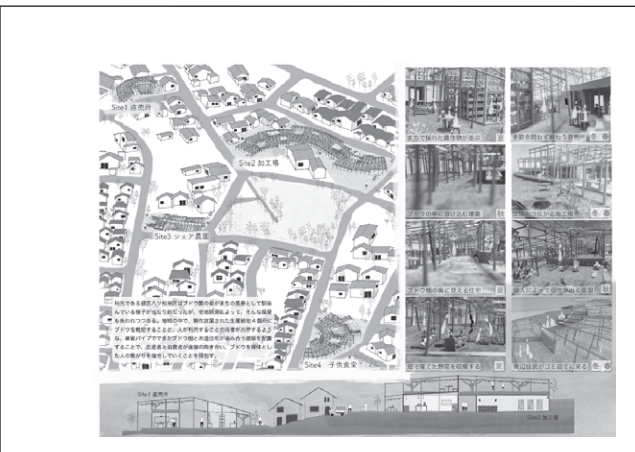
表紙：雑誌『近代建築』

別冊掲載作品(杉本 竜也)

伊吹山をはじめとした石灰石鉱山では、都市や建築を作るために山肌を削り取られ、そこに生息する動植物が全て失われてしまう。本提案では建築による緑化を行うことで、建築が自然を破壊するのではなく、その土地の自然が回復し活性化する「環境のための建築」「地球の一部としての建築」を目指す。人のために作られることが当たり前前の建築を厳しい自然環境から植物を守り育てるために作ること、新しい建築の在り方を考える。



裏表紙：日本建築学会巡回作品(服部 琴音)



裏表紙：愛知建築士会提出作品(伊藤 真央)

※題字 故 中田 武教授

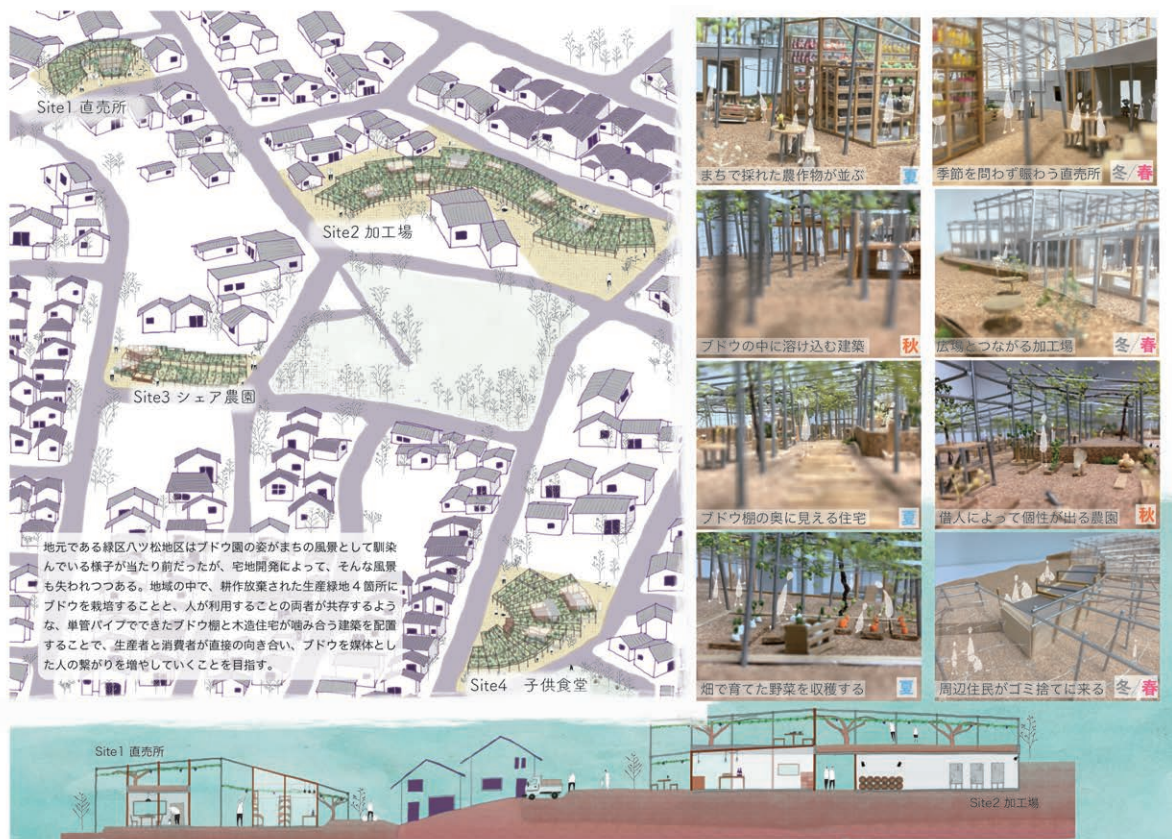
令和3年度役員

名誉会長	高井 宏之教授 (建築学科長)	参与	鈴木 寛 (昭和34卒)	城友会会長	加藤 千明 (――)
会長	下地 康夫 (昭和47卒)	参与	安藤 洋 (昭和41卒)	総務副委員長	鈴木 賢三 (昭和55卒)
副会長(総務)	河合 秀一 (昭和48卒)	総務委員長	大橋 裕一 (昭和56卒)	財政副委員長	駒 秀夫 (昭和45卒)
副会長(財政)	磯野 信秀 (昭和47卒)	財政委員長	稲垣 友彦 (平成6卒)	事業・経済副委員長	岡本 裕太 (平成19卒)
副会長(事業・経済)	鈴木 千春 (昭和54卒)	事業・経済委員長	伊藤 正樹 (平成14卒)	会報・名簿・IT副委員長	深谷 光秀 (昭和53卒)
副会長(会報・名簿・IT)	安井 真 (昭和48卒)	会報・名簿・IT委員長	三宅 賢二 (平成4卒)	組織副委員長	佐藤 勝巳 (昭和59卒)
副会長(組織)	丸澤 良彦 (昭和52卒)	組織委員長	安田 博幸 (昭和52卒)	岐阜支部長	河村 彰雄 (昭和40卒)
監事	岡野 廣海 (昭和50卒)	会計	伊藤 茂 (昭和63卒)	名古屋支部長	大井 俊明 (昭和47卒)
監事	山中 弘 (昭和53卒)	学内幹事	三浦 彩子 (平成8卒)	尾張東支部長	駒 秀夫 (昭和45卒)
相談役	加藤 哲也 (昭和38卒)	常任幹事兼相談役	石川 豊 (昭和47卒)	西三河支部長	深谷 光秀 (昭和53卒)
相談役	廣瀬 敏郎 (昭和44卒)	常任幹事	鈴木 善徳 (昭和43卒)	東三河支部長	山本 利州 (昭和37卒)
相談役	岩崎 征一 (昭和41卒)	常任幹事	谷田 真 (平成7卒)		
相談役	小木曾 森司 (昭和48卒)	常任幹事	大塚 貴弘 (建築学科)		
参与	秦 和久 (昭和30卒)	常任幹事	杉村 竹次 (昭和48卒)		
参与	坂崎 日支夫 (昭和35卒)	常任幹事	荒木 衛 (昭和58卒)		

2021年度 名城大学建築学科卒業制作活動記録 (日本建築学会巡回作品、愛知建築士会提出作品)



優秀賞(日本建築学会巡回作品) 服部 琴音 いきものうつわ ーグレーの街から共生へ、育んでつくる未来ー



優秀賞(愛知建築士会提出作品) 伊藤 真央 葡萄で繋ぐまちの風景 ー生産緑地から人の居場所への変換ー